



「授乳相談室 たかはし」の新しいHPができました！  
詳しくは <http://yuu-baby.com/> ^

それでも実習で色々な科を回っていくんですけど、たまたま産科で教育係についてくれた病院スタッフの方が同じ高校の先輩だということに分かって、すごく嬉しくなっちゃって、そこで一気に「私も産科に配属になりたい！」って思ったんですよ。「確実に産科に配属になるためには助産師にならう」という、何とも動機が単純なんですけど(笑)。その頃ちょうど曾祖母が亡くなったという時期で、とても辛くて、「人の死を看取るのは自分の家族だけで十分だ」と思ってしまった。看護師って人の死に直面する仕事なので、それよりは新しい命が生まれてくる瞬間に立ち会える仕事っていいなあって、それで助産師の学校に進もうと思いました。

高橋優さん（昭和49年、新庄市生まれ。）

助産師として病院勤務を経験した後、母乳育児のサポートをするために東京で開業。2008年に実家のある新庄に戻り助産院を始める。NPO法人母子フィジカルサポート研究会の事務局も務めながら、産科が少なくなった新庄・最上地域を中心に、女性の健康と子育ての悩みに向き合い、きめ細かいケアを実践している。

時にうちで見たママさんが、二人目の時にまた来てくださった、「こんなに大きくなったよ」って連絡をくれて顔を見せてくださる方も多くて、これはこういうスタイルで助産院をやっていないと味わえないものかなと思います。

実は助産師の仕事、一度辞めたんです、2年ぐらいで。「産科ってこんなに恐ろしいのか、こんな仕事できない」って。違う仕事に就こうと、居酒屋でアルバイトしたり、美容外科に勤めてみたり、ぶらぶらしていた時期がありました。助産師の免許を持っているのにね(笑)。でも離れてみたら「やっぱり助産師に戻りたい」と思って。2年の経験で辞めていたので、そこから就職先を探すのは大変でした。現場に戻ってからは必死に勉強しましたね。

Q 最上地域の女性へメッセージ

自分を大切にしてほしいと思います。限られた環境の中だったり家族や社会の中での立場もあって「相手のため」というのが行動の一番になってしまっていて、自分のことを犠牲にしてしまうことが多と思うんですよ。特に最上の女性はそうじゃないのかな？ わがままに好き勝手に生きるのはないけど、今ある環境の中でも自分の夢ややりたい理想、「どのように生きていくか」という自分の気持ちを大事にしてほしいですね。一度きりの人生だから、「自分の人生を自分の生きたいように生きる」私もそうしたいなと思っています。

いけないですよ。昔からある大きな木や植物を切っちゃったりしないでほしいです。残念なことは、田舎は進学でも就職でも選択肢が少ないことですね。身近に色々なお手本がなく、知りようがないっていうのは不利ですね。助産師の仕事も、身近にそういう人がいて、将来の選択肢として参考にできる環境があれば、若い人も目指してみようと思うのかも。そういう意味でも、この地域に根差して自分は頑張っていかなきゃいけないと思います。